

令和4年度 尾道市実証実験サポート事業 テーマ一覧

No.	取組領域	テーマ名	解決したい課題の内容
1	全般	尾道市における地域課題解決に資する事業提案	定住、交流、住宅供給、雇用の創出、子どもの貧困、ひきこもり、ヤングケアラーへの対応など、地域が抱える今日的課題の解決や、効果的で効率的な市政運営の実現

No.	取組領域	テーマ名	解決したい課題の内容	実現したい目標	想定される取組
2	都市基盤	学校のインターネット回線の高速化	スマートスクールの推進や教科書のインターネット利用による電子化により、今後ますます小中学校のインターネット環境の高速化は必要不可欠となっている。 学校のインターネットは、「学校」→「市役所（各種スイッチ、サーバー、ファイアウォール）」→「インターネット」の順で外部環境に接続しているが、市役所内の回線の容量が既に上限となっているため、これ以上、学校のインターネット速度の高速化は期待できない。（※NTT西日本提供のビジネスイーサワイドのケースに限る。）	1) 市庁舎内の回線の増強（※NTT西日本提供のビジネスイーサワイドのケースに限る。） 2) 次世代高速通信化技術の採用	新たな通信技術の検証 ・SD-WAN ・SINET ・Zero Trust ・セキュリティクラウド など
3	都市基盤	地中に埋設された水道管の腐食度合の検知	年間約600件～700件の漏水が発生しており、その内断水を伴う漏水事故も発生している。漏水頻度やリスクの大きさ等から優先順位を付け効率的に更新はしているものの想定外の漏水があるのも現実です。その事から漏水時のリスクの大きさから順位を付け、腐食度合いの正確な判定を行う方法が求められる。	埋設された水道管を可能な限り正確かつ効率的に検知し漏水予防保全に活かす。	各種先進センシング技術
4	都市基盤	交通路線の減少	地域公共交通は、路線が廃止されるなどして、高齢者等の移動手段の利便性が低下している。 バスタクシー事業者は、運転手不足が深刻化している。 市民の移動手段の大半が自家用車であり、公共交通が利用されなくなっている。 バスやタクシーの運転手は労働時間や賃金面の雇用条件が良くないため、選ばれにくい職種となっている。	持続可能な交通網の構築。	自動運転車 MaaS

No.	取組領域	テーマ名	解決したい課題の内容		
5	都市基盤	地図アプリと附属機能を用いた屋外広告物の把握及び地図情報とリンクした情報管理	屋外広告物の設置許可事務を行っている中で、手続きの有無による不公平感の発生と、明瞭な情報管理システムが未整備であることから、未手続き広告物の解消につなげるための屋外広告物の全件把握と、地図を基盤とした情報管理を行いたい。	屋外広告物の全件把握による未手続き広告物の解消と明瞭な情報管理による業務の効率化。	地図アプリと附属機能の活用 設置許可申請書のスキャンによる位置情報等（設置所在地）の地図への落とし込み 上記2項目の整合処理による地図上への表記 財務会計システムとの連動（歳入伝票処理）
6	都市基盤	災害発生時の現地調査	現場へ調査へ行き、帰庁後調書にて報告するため、緊急性が高い場合の初期対応が遅れ、2次災害につながる。 調査時の職員の居場所が不明瞭であり、新規調査箇所への対応が遅れる。	現場と庁舎がモニターでつなげ、現場の様子を調査職員だけでなく庁舎で指揮する職員が把握できることで、対応や処置の迅速化を図る。 端末のGPS機能やメール配信等により、調査職員の居場所を把握したり、次の調査箇所の資料を送信することで、調査効率を向上させる。	タブレット端末によるオンラインでの調査報告と、GPS機能などによる調査職員の居場所の把握、次の調査指示など
7	健康・福祉	障害のある人への情報アクセシビリティの向上	視覚、聴覚等に障害のある人への情報伝達について、手話通訳や要約筆記、点字などの技術を持った方に依頼する必要があるが、対応できる方が少なく、多様な機会が提供できない。	手話通訳者不在時においても情報伝達をスムーズに行う。 また、手話に限らず情報アクセシビリティを向上させたい。	AIの活用等による、音声情報の文字化、文字情報の音声化、手話情報の文字、音声化など
8	健康・福祉	特定保健指導実施率の向上	令和3年度からタブレット端末やラインアプリ予約、Zoomの活用を進めているが、特定保健指導実施率の伸び悩んでいる。 就労されている方は、時間の制約があり、利用につながりにくい。 コロナ感染を心配し、対面の相談を躊躇する人がいる。	利便性向上（24時間予約可能・自宅でWeb面談など）により無関心層の行動変化を促し、特定保健指導の実施率を向上させる。	市民の保健指導に対する意識を高める効果的なアプローチ
9	教育	遠隔授業の実施	尾道教育総合推進計画が目指す「主体的・対話的な深い学び」を実現するためには、一定の数の児童生徒とともに学ぶことが望ましいが、現状では困難な学校がある。 小規模校（中学校）においては、教員の定数配当の基準により、特定の教科の教員の配置ができず、講師（非常勤）による授業を実施している。しかし、当該教科の講師（非常勤）不足が続いているとともに、高齢化が進み、今後、講師（非常勤）の確保が困難になる可能性がある。	児童生徒数の少ない学校において、他校との遠隔授業を実施することで、主体的・対話的な深い学びを実現する。 遠隔授業を実施することで、特定の教科の教員が配置されていない学校の授業を可能とする。	遠隔授業が実施できる技術 授業者の投影だけでなく、授業者と生徒相互、生徒相互のコミュニケーションがヴァーチャルに実施できるなど、臨場感のある授業の実施

No.	取組領域	テーマ名	解決したい課題の内容		
10	観光・文化	デジタル技術を活用した観光データの収集とデータに基づく観光マーケティング	現状の観光統計は、交通機関や駐車場、観光施設、宿泊施設の利用者数を基に全体の観光客数・観光消費額を推計値として算出しているが、集計に多大な時間と労力を要している。また、観光客の属性（年齢別、性別、リピーター率など）や嗜好・消費動向（何にいくら使われたか、満足度など）、観光行動（行動履歴など）といった観光マーケティングに有益となるきめ細かいデータは観光統計で把握できていない。	デジタル技術を活用することで観光マーケティングに必要な信頼性のある各種データを素早く正確に収集し、それを地域の観光事業者と共有し、地域が一体となって観光客のニーズに合ったサービスの提供や新たな商品開発などにつなげ、観光客の満足度の向上や滞在時間延長、観光消費額の増加につなげていく。	スマホGPS キャッシュレス決済 オンライン予約 MaaS AI 口コミサイトデータ収集・分析 人流カメラ
11	観光・文化	芸術・文化の新しい参加方法	新型コロナウイルス感染症の影響により、芸術の鑑賞機会が減少している。 児童・生徒に向けたワークショップ等を開くとき、大人数に向けてインターネットを接続し、映像を流すことは難しい。	ホールから離れていても、鑑賞が可能になる。 児童・生徒の個々のタブレットで映像が視聴可能になる。 一度に多くの学校でワークショップの開催ができる。講師とオンライン上での対話が可能になる。	既存のICTインフラを活用した取組
12	観光・文化	豊かな鑑賞体験の提供	全ての作品を鑑賞できる順路を設定しているが、人によって一つ一つの作品を鑑賞する速度が異なるため、混雑する展示室と空いている展示室が生じる。一部の展示室が混雑することによって、展示室内のキャプションや解説パネルが見えにくくなることもあり、また求められる情報の質・量も鑑賞者によって異なる。	状況によっては、個々の鑑賞速度や館内の混み具合を反映した新たな推奨ルートを提示して、ストレスを感じない鑑賞機会を提供する。 また解説内容を数パターン用意するなど、鑑賞者のニーズに応じた多様な鑑賞方法を提供する。	携帯情報端末を用いた、美術館内案内システム・作品解説システム
13	観光・文化	デジタル技術を活用したイベント体験	因島を代表するイベント「因島水軍まつり」で開催される小早レースは、海上で行われるため駆け引きなどの迫力ある状況が陸上の観戦者に伝わりにくい。	ドローンに等よる臨場感あふれる場面（映像）を間近に鑑賞できることで、レースの迫力や参加者の奮闘を陸上でも共有する。 また、その映像を観光振興に活用することで、更なる集客を目指したい。	VR技術
14	観光・文化	歴史的資源を活用した誘客	「村上海賊」の本拠地の1つである因島には多くの城址があり観光コンテンツの一つになっているが、城址・城址に至るまでのルートは険しい山道が多く、環境整備等が困難となっている。	山道の状態が悪く登頂できない場合や、高齢者や障害のある人等現地を訪れることが困難な人達にも当時の城の様子を体験してもらえる仕組みを作り、来訪者に楽しんでもらう。（城址においてVR・AR等による当時のイメージの再現等。）	VR・AR技術